



全国のA子先生へ、A男先生へ。

事務局長 松崎二葉

残りの雪が見えます。梅が数輪、綻びました。東京にはもう早春の息吹きがただよっています。そんなある日、F県から見学者をお迎えしました。F県のA子という女の先生です。

M県の指導主事のB先生や、H県の男の先生も、偶然一緒になられました。ご案内したりご説明したりのひと時を過ごしました。

A子先生は、しばしば発言されました。ひたむきさを覚えました。辞去される前に、ふとしたはずみで、お携えの論文を拝見する仕儀となりました。

指導の個別化・学習の個性化という立場から観ても、社会科の望ましい姿から観ても、それはすばらしい論文でした。

◇ ◇ ◇

本校には、本年度も、2百名余の先生方が、参観においてくださいました。数が増えこそすれ、減りはいたしません。ご質問が鋭いものになってきました。当面の具体的な課題を携えてのご来観が多くなってきたということでしょう。

そんな中で、A子先生の論文に接したのです。この会報第2号(59.9.10)には、染田屋会長の「個別化教育の輪を広げるために」と題して、「個別化教育に打ち込む現場の先生がたの連帯と友情の深まるこころ」を願った論説が載っています。A子先生はまさに、個別化教育に打ち込む現場の先生であると感じ入りました。

◇ ◇ ◇

A子先生と同じような同志的先生は、全国の各学校にいらっしゃるはずです。心で思い悩むだけでなく、もうすでに実践に移し、それをまとめた先生もたくさんいらっしゃるはずです。

全国のA子先生、どうか手をとり合いましょうーそんな気持ちでいっぽいです。

◇ ◇ ◇

「久原小で、発会式があるそうですね。」「ええ、私も参加する予定です。」「そうですか、私も、できたら参り

ます。」

これは、A子先生を見送りがてらの会話です。久原と書いて、クバラと読むのだそうです。61年3月8日午後福岡県粕屋郡久山町女久原小で、発会式があるのです。九州個別化研究会(発起人・三原英雄教育長・加藤幸次先生)が生まれるのです。

◇ ◇ ◇

60年6月には、東海個別化教育研究会が誕生しています。今また、九州での呱呱の声です。

関東では、もう実質的な研究活動にはいっています。輪は、大きく大きく広がりつつあります。ありがたいことです。

全国のA子先生、もちろん同時にA男先生、こんな動きについて、心をお寄せになってください。会報をお手になさったかたがた、どうかお誘いになってください。

(61.3.1記)

(東京都板橋区立金沢小学校長)

夏季研修会予告

- テーマ 個別化教育の進め方と教材づくり
 - 期日 昭和61年8月1日(金)~2日(土)
 - 会場 板橋区教育相談所
所在地 東京都板橋区坂下2-18-1
電話 03(967)6181~2
交通 地下鉄・都営三田線「蓮根」下車3分
 - 会費 5,000円(資料・材料費を含む)の予定
 - 講師 国立教育研究所第四研究部室長
加藤幸次先生・他
 - 内容 第1日 個別化教育のあり方、実践
(講義・学習材の紹介)
 - 第2日 学習材づくり
(講義・学習材作成)
- 詳細は、次号でお知らせいたします。

個性化教育の現状と今後の在り方を探る

愛知県・緒川小学校で公開実践研究会

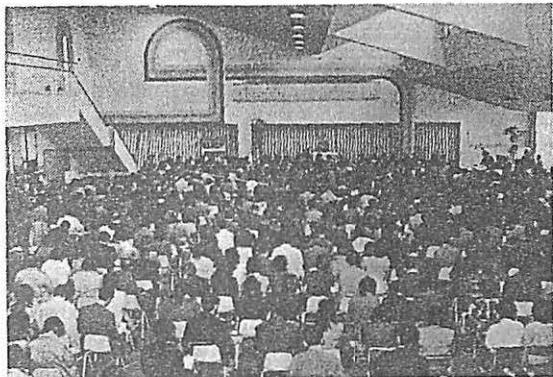
全個教連加盟校で、個性化教育の先進校として知られる愛知県・緒川小学校（新美一成校長・連盟理事）で、1月31日から2日間、「個性化教育の現状と今後の在り方を探る」をテーマに第6回オープンスクール公開実践研究会が開かれた。教育改革論議の中で「個性重視の原則」がクローズアップされているだけに、個性化教育へのアプローチに关心を持つ全国の教育関係者が両日にわたりて学習を参観したり、分科会で熱心に討議したりした。

研究会は、全個教連と東海個別化教育研究会が後援したほか、県外からの多数の参会者のために国鉄が名古屋から臨時列車を運行するなど、関係機関の協力によって開かれた。

第1日は、午前中に8活動に基づく学習のうち、創造B、総合A・B、教科A・B、芸術スポーツAなどが公開され、参会者は熱心に校内を参観した。午後からは、「個性化教育の現状と課題」と題する基調講演（国立教育研究所 加藤幸次室長・連盟副会長）が行われたあと、7つの分科会で活発な討議が行われた。

翌2月1日も、学習公開のあと3分科会で研究協議が行われ、北海道から沖縄までのべ1600名を超える保・幼稚園、小・中学校の先生方や、大学・研究所・行政・建築家・父母の方々が研究と交流の輪を広げた。また、海外からも参会者があつて、興味深く参観し、討論にも加まつた。

緒川小学校では、現在、具体的な個性化教育カリキュラムの編成を急いでおり、このうち、研究会では今年度に創設した総合B（個人追究型の総合学習「トピック」）が新たに紹介された。この学習は、従前の総合A（学級集団を基盤にして追究する総合学習）を更に進め、一人ひとりの統合や応用の力を高めようとするもの。郷土・環境・国際理解の3本の柱でどの学年も年間70時間学習



されている。6学年分18テーマが既に開発されており、当日は、2年生「ペンギン村のさんぎょうまつり」、3年生「昔話を調べて絵本をつくろう」、4年生「日本人バンザイ」、5年生「入海神社と祭ばやし」、6年生「国際人へのパスポート」が公開された。

一方、自己学習力に連なる児童理解と、それを指導に生かそうとする学習パッケージの多様化も昨年度から引き続いて取り組まれ、公開された。高学年ブロックでは週間プログラムによる学習（単元内自由進度による自学）の各単元の「てびき」がそれぞれ3～5種類に多様化されており、適性に応ずる1つの方法として注目された。

2日間の研究会を通して、個別化・個性化教育に対する確かな意識改革の手ごたえと、全国的な実践の広がりを感じさせた反面、いくつかの課題も明確になってきたように感じられた。たとえば、学習力の育成に関わって、学力保障への懸念が経験の浅い先生方から出されたり、適性に応ずる具体的な方途が不明確なまま実践されているのではないかという声が出されたりするなど、今後、地道な研究と経験の交流が必要だと痛感させられた。

2日目の午後からは、全個教連との共催で来日中のイリノイ大学教授バーナード・スポーツマン博士夫妻による記念講演「子どもの発達とオープン教育」が行われた。都立研究所の北沢弥吉郎先生など多数の参会者を前に、博士夫妻は自ら意志決定する人間像を熱っぽく語られた。（記念講演の内容については、2月末日付教育新聞の報道記事を参照されたい）

連盟会員を中心とする大勢の参会者は、昼食休憩の時間も同校の職員を囲んで熱心に話し合うなど、両日ともに精力的に研修を深めた。また、連盟を通じて友人になった各地の先生方どうしの交歓風景もみられ、有意義なひとときをすごすことができた。

なお、同研究会の模様は、ドキュメント番組にまとめられ、フジテレビを通して全国に放映された。



学 期 研 究 会

期 日 昭和 61 年 2 月 20 日(金)

会 場 東京都板橋区立金沢小学校

講 師 イリノイ大学教授 バーナード・スポーディック博士

染田屋会長より講師の紹介があった。

イリノイ大学教授 バーナード・スポーディック博士
1931年9月17日ニューヨークに生れ、ブルックリン大学心理学部、コロンビア大学教育学部に学ぶ。現在、イリノイ大学教育学部長

著書「オープン・エデュケーション入門」佐伯・栗田訳(明治図書)他多数

個別化教育の推進について思うこと

都立教育研究所 粟野俊昭

2月20日、金沢小において「アメリカにおける子供の生活と教育」の講演があった。講演は就学前教育を中心であり、必ずしもアメリカ全体には当てはまらないという前おきで始まった。アメリカ社会の変化の影響、子供自身の変化、学校でできることの三つがその内容である。

アメリカの社会の動きは日本とはやや違うこと、アメリカの教育は社会の抱える課題をふまえていること、アメリカの教育は昔から「社会化」をねらいとしてきたことがよく理解できた。アメリカにおける教育は、個別化しなければ実施できなかつたとも考えられる。

わが国における個別化教育の推進にあたって、アメリカの教育から学ぶ点は、取り入れるべき個別化教育の手法でなく、目の前の子供を見て理解し、それに応じて教育の内容、方法を工夫しようとする姿勢ではなかろうか。

バーナード・スポーディック博士は最後に「他を知ることは、自分のことを知るという利点があります。」という言葉でしめくくり、日本の学校を見て、アメリカのことを考えているとのことであった。

自分たちの手でつくり出す

柏市立柏第三中学校 松田早苗

一人ひとりの子どもには個性があり、知的にも社会的にも「ちがい」がある。それゆえ、いろいろな学習のしかたが考えられるとスポーディック博士は主張する。私たちも気づいてはいるが、なかなか対応できないことが多い。博士は更に続ける。子どもの学習のパターンを次のように分析している。子どもたち自身で見たり、聞いたりする活動を通して、自分たちの手でつくり出すことだとして、経験や体験を自分なりに表現させる。このために十分な時間を確保してやることが肝心だと言う。

まさに痛いところをつかれたような気がした。私たちは、教科や教科書の壁にはばまれて、子どもたちの手でつくり出す活動を取り入れていくことができないでいることが多い。特に小学校の低学年から知的なものに走る傾向があるからである。

博士の講演をきいて、合科的学習や総合学習の重要性を認識し、子どもの持つ「ちがい」にいかに対応すべきか考える必要を感じた。それにはまず私たち教師の意識が、いかにかわるかにかかっているのではないだろうか。

お話を聞いてうかんだ子どもの姿

板橋区立金沢小学校 脊木治人

博士の話を聞きながら、2学期の最後の1週間のことを思い出していた。その1週間とは、それぞれの子どもが、自分なりの学習計画で、自由に活動できる期間として設定したものであった。

手書きが器用で、創造性ゆたかなI君は、ほとんど図工関係に時間をとっていた。算数の得意なS君は、その1週間で3学期分の勉強をやってしまうほどの時間のとり方をしていた。K子さんは音楽が中心。T君は歴史。また、O君は、今まで残っていた課題をびっしり組みこんでいた。ある子は教室で、ある子はワークスペースでまたある子は新音楽室やオープンルームで、それぞれ自分なりの学習を追究していた。どの子も、生き生きと活動していたことは言うまでもない。

個別化・個性化学習の本質からはずれるかもしれないが、少なくとも、彼らが自分の個性を生き生きと表現できる時間や場は、教師の工夫次第で与えてやることができるのでないだろうか。“カリキュラムをモディファイする”という話からこんなことを思い出していた。

講演を聞いて

埼玉県江南中学校 須藤 隆

スポーディック博士から「アメリカにおける子供の生活と教育」という講演をお聞きしました。話は、(1)社会の変化、(2)子供自身の変化、(3)学校がなすべきことは何かの3点でした。洋の東西を問わず、子供をあざかり教育をする立場にある教師として、学校でなすべきことは何かを考えた場合に、社会の変化、それに伴う子供自身の変化してきている状態を視野に入れた上で、それでは学校が何をしたらよいかを考える視点は、アメリカに限らず、日本においてもますます大切になってくるものと思います。

子供の一人一人の個性を重視していくことの必要性を強調しておられましたが、この意見には全く同感です。「個」よりも「集団」にウエートをかけた教育を行ってきた日本にあっては、「個」の伸長をはかる教育の必要性が当然重視されてしかるべきだと思います。

この一人一人の個性を重視するということから「個別化教育」も呼ばれてきたものと思いますが、果たして、現行の教育制度のもとで部分的には可能であるとしても、完全なる個別化教育を導入することは可能なのかという問題を考えた場合、難しいという気もします。

事務局だより

事務局長 松崎二葉

理事会・総会報告

全国個別化教育研究連盟の同志の皆様に、年度末に当たりまして、ご協力のお礼を申しあげます。いろいろとおせわになっています。

右記のように、総会も理事会も、無事終了いたしました。まことにありがとうございました。

各地域の個別化教育研究会と

全国個別化教育連盟との関係について

東海・九州というように各地域の研究会が発足中で、ありがとうございます。両者の関係を、改めてお知らせいたします。

(2) 地域の研究組織(A)と全国個別化教育研究連盟(B)との関係について

ア Aは、自主的に定例研究会や研究発表会等を行う。

乙は、会報の発行・夏季研修会の開設等を行う。AはBに対して、情報を送りBはそれらを全国的に紹介する。

イ 会員は、Bに対して年会費2000円を納入すると共に、Aに対しても、Aの決める会費若干円を納入する。(Aの会員はBの会費が軽減され1000円となる)

ウ Aの役員代表者は、Bの理事であることが望ましい。

エ Aは、Bの設立趣旨・会則をふまえたうえで、会則等をお決めいただきたい。

これは、60年2月1日の理事会で決議し、60.11.15付会報第5号4面で報じたものです。

東海の場合

会員は、3,000円を、東海事務局へ。東海事務局は、うち1,000円を連盟へ一括して送金。

九州の場合

会員は、2,000円を、九州事務局へ。九州事務局は、うち1,000円を、連盟へ一括して送金。

これは、上記イの()書きに関係があります。つまり連盟への送金が地域で一括されることを条件に、1人当たり1,000円でけっこうですというわけです。

地域の研究会の会費は、1,000円でも2,000円でもけっこうです。自由におきめください。

会報の配付等の際も、地域の研究会への一括送付をしますので、連盟へは1,000円で、という考え方です。

地域の研究組織がまだ発足していない方や、あっても入っていない方は、従来どおり、年額2,000円を全個教連事務局へ、ご送金ください。

お問い合わせやご助言は

〒173 東京都板橋区加賀2丁目2番1号
板橋区立金沢小学校 電話(03)964-3068(校長室)
全国個別化教育研究連盟事務局長 松崎二葉

理事会、総会を緒川小学校で開催いたしました。

総会次第

開会のことば

理事 高木省三

会長あいさつ

会長 染田屋謙相

議事 <すべてご承認いただきました>

事業報告 会報発行、夏季研修会、東海個別化研究会発足

会計報告 別記のとおり

事業計画 夏季研修会・学期研究会・研究紀要

閉会のことば

理事 小東敏良

会計報告

○収入 747,038円

1. 会費

種別	会費	口数	納入金額	備考
個人会員	2,000	110	220,000	
団体会員	5,000	11	55,000	
賛助会員	5,000	0	0	
東海個別化研究会			46,000	1,000×46

2. その他

種別	収入金額	備考
59年度繰越金	290,946	
自主性の会より	10,000	
夏季研修会	120,616	
その他の	4,000	個人会員過納分
預金利子	476	

○支出 150,590円

款項	目	予算額	決算額	備考
事業費		170,000	7,800	
	総会費	20,000	0	
	研究・研修活動費	30,000	0	
	広報活動費	50,000	0	
	研究発表会費	30,000	5,000	
	涉外費	20,000	0	
	会議費	20,000	2,800	昼食代
事務費		150,000	142,790	
	印刷費	100,000	75,000	会報、案内状
	連絡通信費	30,000	60,110	郵送料
	消耗品費	20,000	7,680	帳簿、ラベル
予備費		12,000	0	

○差引残高 596,448円

上記の通り決算報告をいたします。

昭和61年1月21日

会長 染田屋謙相

事務局長 松崎二葉

会計部長 松山雄一

監査の結果相違無いことを認めます。

昭和61年1月29日 監査委員 山本正志

行徳高徳